

# パオちゃん's EYE

2020年9月1日 発行 No.42

## 岡山県の地形

地形は、その地域の岩石が雨や気温変化などで崩れていく侵食作用、地震などで地面が徐々に盛り上がる隆起作用・地面が徐々に沈む沈降作用、泥・砂・れきなどが自然の流水や人的作用などでたい積していくたい積作用、火山噴出物が放出される火山活動などでできます。このうち、岡山県内の地形の多くは侵食作用・隆起作用・たい積作用でできたものです。火山はわずかに県北西部の蒜山地域に見られるだけで、それも最近数10万年間は火山活動が起こっていないため侵食作用により元の火山の形はだいぶ失われています。また気候が温暖なためアルプス山脈のように氷河で削られてできた地形はありません。

標高で見ると岡山県の地形は北から南に、標高1000m程度の中国山地、標高400～600m程度の吉備高原、標高約300m以下の瀬戸内丘陵や岡山平野と、段階的に標高が低くなっています。そして、中国山地や吉備高原などの地層からは約1500万年前の浅海生の貝化石が産出することから、岡山県を含む中国地方の広い範囲は、かつて浅海で、その後、徐々に隆起したものと考えられています。中国山地は隆起する速度が速いため侵食作用が早く進み岡山県内では最も地形が急で（隆起する速度が速いほどヒマラヤ山脈のような急な地形になる）、吉備高原はそれに次いで隆起する速度が速くやや急な地形（幼年期地形：台地状の山々が連なり、その間を河川が深く削るように流れている）で、最も隆起する速度が遅かった瀬戸内丘陵・岡山平野はなだらかな地形です。

なお、地球全体が暖かった約6500年前の縄文時代は海水の膨張や極地方の氷の溶出で現在より海水準が数m高く、岡山平野の大部分は遠浅の海だったようです。その後、地球全体の気温が下がり、約3000年前に今の海水準とほぼ同じになりました。さらに16世紀以降は、高梁川・旭川・吉井川の河口付近の干潟を人為的にせき止めて陸地化が進められ（干拓）、今の岡山平野となりました。岡山平野ができるより前は、倉敷市内の向山や鶴形山などの小高い山は浅い海に点在する島でした。干拓の時期より前につけられたと思われる倉敷市内の羽島、福島、連島など「島」のつく地名はそのなごりで、他にも倉敷市には「沖」、「浦」、「江」など海域に関係する地名が多いという特徴があります。

岡山県は南部の岡山平野を中心として平野が多く、地形的には比較的、人が住みやすいです。

**武智泰史(地学担当)**

パオちゃんズアイ<sup>66</sup>に関するお問い合わせは

### 倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp

博物館ホームページには  
いろんな情報がいっぱい♪  
「倉敷市立自然史博物館」で  
検索してみよう！パオより

